

令和4年度 わかあゆ認定こども園自己評価結果

1. 教育・保育の目標

園児一人一人に応じた教育・保育を一体的に行い、心身ともに健康で明るく、たくましい子を育てる。

■ 目指す子どもの姿

- げんきにあそぶ子
- あいさつのできる子
- おもいやりのある子
- じぶんのことはじぶんでできる子

2. 重点的に取り組む目標・計画

- 危機管理を徹底し、安心及び安全な環境づくり、安全教育に取り組む。
- 教員研修を継続的に実践し、職員全体で教育、保育の質の向上を図る。
- 保護者と外部機関との連携を図り、子どもの育ちを共有する。
- 子どもの発達や時期に応じた環境の構成や指導の充実を図っていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
認定こども園教育・保育要領に基づき、園児の実態に即した指導計画が作成されている。	A	教育・保育要領に基づき、日々の保育の中で育てほしい姿を職員間で共有しながら作成したが、4月当初は園児の実態の把握が難しく、年に数回は指導計画の見直しが必要と思われる。一人一人の発達に合わせ個別の計画（支援含む）も作成してきた。
指導計画により、計画的に教育・保育が行われている。	B	指導計画に基づき保育・教育が行われているが、子どもの成長や実態に合わせより良い保育を展開できるようになるとさらに良い。
子どもの発達や時期に応じた環境が構成されている。	B	子どもの興味関心に基づいて、自発的・主体的に関わりたくなるよう、計画的な環境構成や教材工夫等について職員間で話し合い実践してきた。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導が行われている。	B	子どもの生理的リズムを大切にしながら、家庭環境や発達の違いを考慮し一人一人に応じた援助を心掛けた。今後は保護者への共通理解に向けた伝達の仕方が課題になる。
外部や研修や園内研修を通して、職員全体の資質向上を図っている。	B	園内研修や職員会議等、職員全体で共有することで保育の質の向上につながっている。職員全員での研修が難しい状況なので、研修の持ち方についての工夫が必要となる。
小学校との円滑な接続を意識し、情報を共有したり連携をしたりして取り組んでいる。	B	情報交換や園訪問などを通して連携を図っているが、乳幼児期の保育・教育の理解を小学校に発信していくことが今後の課題となる。 幼児教育の実情や学校教育の実情、子どもの自主性や主体性について、共通理解を図る機会があると良い。

危機管理を徹底し、子どもたちが安心して活動できる環境作りが行われている。	B	各マニュアルの共有をしたり、保育教諭自身がマニュアルに対して意識を高めたりすることが出来た。 子ども自ら状況に応じて危機を回避し、安全な行動をとれるよう、過介入しすぎない保育教諭の関わりや環境が求められる。
家庭や地域と連携を図っている。	C	園だけでなく保健師による巡回訪問等連携を図っている。 家庭や地域と連携を図るために、更に園の方針や保育教諭の意図等について理解を求める取り組みが必要である。
情報の公開・発信に取り組んでいる。	B	毎月の園だより、保健だより、HPの活用、一斉メールでの周知を行っているが、受信する側が分かりやすいように工夫することが今後の課題になる。

※評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
子どもの実態に合わせた指導計画と評価	カリキュラムマネジメントに基づいた指導計画の作成、保育の展開、評価及び指導の改善に取り組む。
環境構成の充実	発達や教育課程に基づく計画的な環境の構成、教材の工夫をしていく。
家庭や地域との連携及び情報の公開・発信の工夫	園の方針と保育教諭の意図等を周知していく。 受信する側がわかりやすい情報発信の工夫をしていく。
関係機関との連携	小学校との円滑な接続を意識した情報共有や連携を充実していく。 教育機関、療育機関、医療機関、担当課等との情報共有や連携の充実をしていく。

令和5年3月31日

評価者

那珂川町立わかあゆ認定こども園

園長 川 上 清 美